

(2) 各拠点における生活利便施設等の配置状況の把握

本市には、拠点だけでなく主要な交通軸上に、商店・診療所から商業施設・病院まで、様々な規模の生活利便施設が立地しています。

これまで都市機能の強化を図ってきた「街なか」の拠点について、将来に向けて階層構造の拠点の形成を図るためには、比較的高次の都市機能を誘導していく必要があることから、各拠点の現状把握においては、これらの都市機能を担う生活利便施設の配置状況を把握することとします。

このため、配置状況等を把握する都市機能は、以下のとおりとします。

- 小売店舗(売場面積3,000㎡以上)
- 医療施設(病床数200床以上)
- 福祉施設(収容人数200人以上)
- 大学・短期大学(学生数500人以上)
- 公共施設

また、各拠点の地理的な検討の範囲は、以下のとおりとします。

○北九州都市圏都市計画区域マスタープランにおける広域拠点・拠点の同区域内。ただし、当該区域が明確化されていない拠点については次のとおり。

- ・徳力・守恒：モノレール北方、競馬場前、守恒、徳力公園前の4停留場から半径500mの同心円内
- ・八幡南：筑豊電気鉄道木屋瀬、新木屋瀬の2駅から半径500mの同心円内
- ・東折尾：JR鹿児島本線陣原駅から半径500mの同心円内
- ・上葛原：上葛原及び上葛原第2土地区画整理事業をあわせた区域内
- ・二島：JR筑豊本線二島駅から半径500mの同心円内
- ・永犬丸・三ヶ森：筑豊電気鉄道永犬丸、三ヶ森の2駅から半径500mの同心円内

○公共施設マネジメント実行計画(平成28年2月)のモデルプロジェクト再配置計画に定める集約先の対象とする場所・区域。

以上をまとめると資料編P15～P31の図(凡例の「区域マス」は北九州都市圏都市計画区域マスタープランのことをいう)になります。

北九州都市圏都市計画区域マスタープラン(福岡県決定)で定める広域拠点・拠点とは：

広域拠点は、広域的で多様な都市機能の集積を図るため、大規模集客施設の立地を誘導する区域で、原則として床面積等の規模上限なく大規模集客施設が立地できる区域。

拠点は、身近な地域において都市機能の集積を図るものとし、立地の影響が一つの市町村の範囲内に留まる程度の大規模集客施設の立地を誘導する区域。

誘導する大規模集客施設の種類等については、P67参照。

(3) 各拠点の将来のまちづくりの方向性と拠点階層の整理

各拠点において、

- ・本市の直近の新たな施策や都市機能を強化する事業の展開など各拠点の「拠点性の向上要因」を挙げた上で、
- ・(2) で把握した比較的高次の都市機能を担う生活利便施設の配置状況を踏まえ、

「将来のまちづくりの方向性」、このまちづくりの実現を図るために維持または誘導すべき高次都市機能(「期待される役割」)を整理します。

ここで期待される役割としての高次都市機能の立地イメージは以下のとおりとします。

- 業務 : 本市内に本社機能を置く企業の本店、全国展開がなされる企業の支店が多く立地しオフィス街を形成。
- 商業 : 小売店舗(売場面積3,000㎡以上)が立地。
- 医療 : 高次の医療が受けられる医療施設(病床数200床以上)が立地。
- 教育・文化 : 大学・短大等(学生数500人以上)、市外や国外からの利用も想定される会議施設、文化施設などが立地。
- 観光 : 市外からの入込が多い観光施設などが立地。
- 行政 : 庁舎、区役所、基幹図書館、再配置計画に基づき集約する公共施設が立地。
- 交通機能 : 3つ以上の公共交通モード(交通事業者で判断。例として、鉄道、バス、モノレールなど)での交通結節が可能。

これらをまとめるとP63の表のとおりです。

これをもとにして、これまでの上位計画に位置づけられた各拠点がどの拠点階層に相当するかをあらためて見ると、

「都心・副都心」は、

- ・少なくとも、高度な交通結節機能(3つ以上の公共交通モードを有しているもの)を担うもの
- 「地域拠点」は、都心・副都心を除き、
- ・期待される役割がある拠点のうち、
 - ・複数の上位計画に拠点等の位置づけがあるもの、又は、2種以上の高次都市機能が期待されるもの

「生活拠点」は、都心・副都心及び地域拠点以外のもの

と整理することができます。

なお、同一拠点で複数名称があるものがあるため、以下、立地適正化計画における都心・副都心、地域拠点、生活拠点の地区名称は次のとおりとします。また、八幡の地区名称については、博物館等の観光資源の集積や北九州スマートコミュニティ創造事業等の実施により拠点性が向上している東田地区も含めて一の拠点として扱うこととし、「八幡・東田」とすることとします。

(立地適正化計画における都心・副都心、地域拠点、生活拠点の地区名称)						
小倉都心	黒崎副都心	門司港	門司	城野	徳力・守恒	
下曾根	若松	八幡・東田	東折尾	折尾	八幡南	戸畑
上葛原	学術研究都市	二島	永犬丸・三ヶ森			

(4) 将来都市構造

都心・副都心、地域拠点として整理した各拠点を図として表すとP64の通りです。

拠点とこれらを結ぶ軸から構成される、目指すべき本市の将来の全体都市構造は、門司港が頭で、学術研究都市が尻尾、南の下曾根・八幡南等を足とする、いわば「コンパクトザウルス」型の都市構造とすることができます。

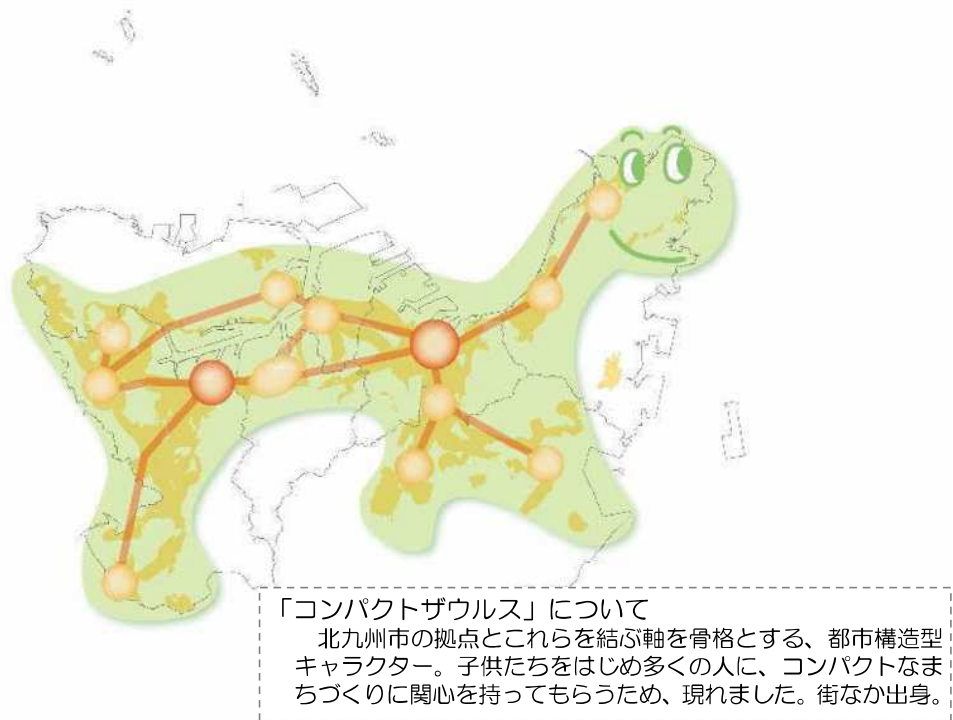
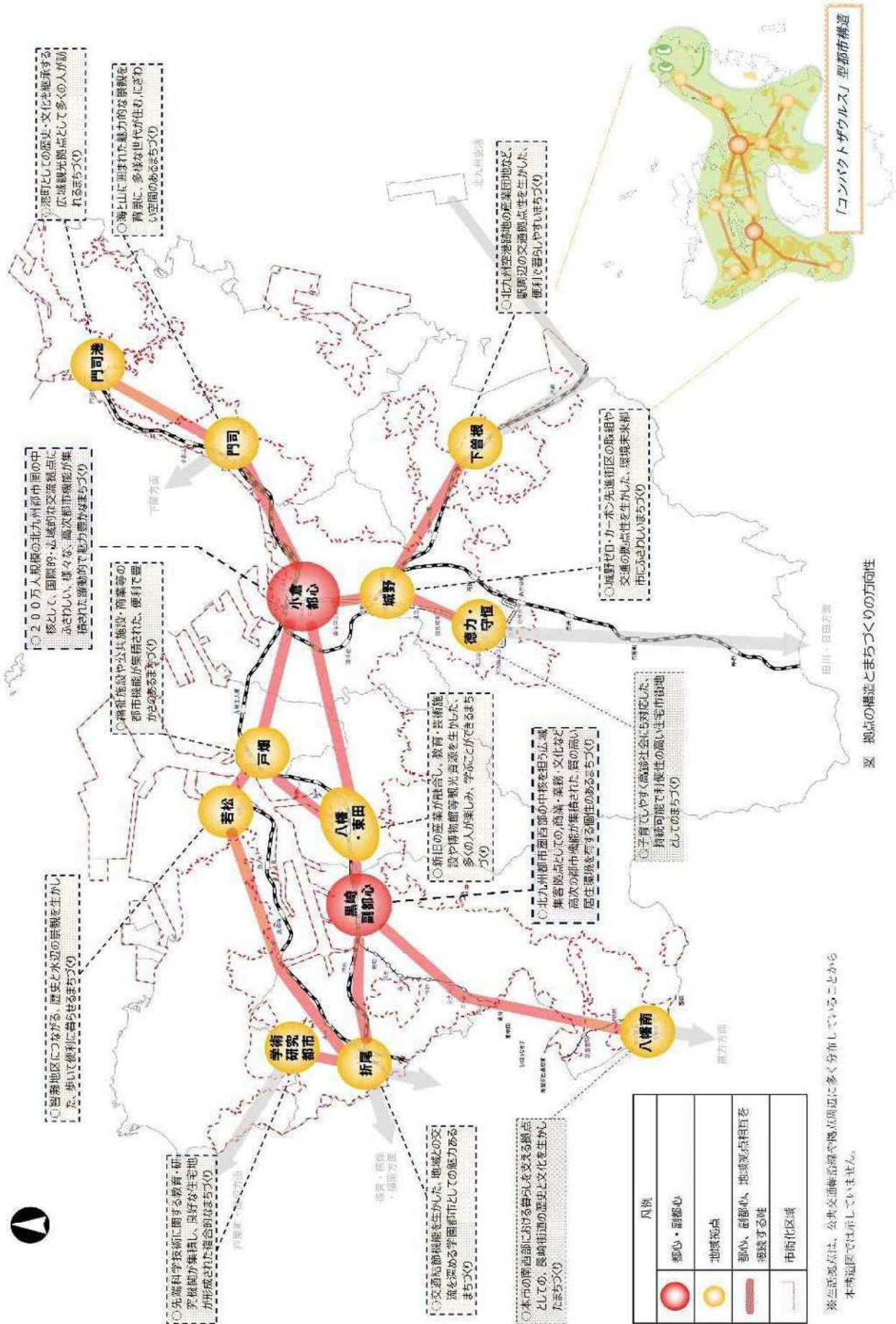


図 「コンパクトザウルス」型の都市構造

表 将来のまちづくりの方向性と期待される役割

拠点としての 階層	期待される役割							
	高次都市機能							
	業務	商業	医療	教育	観光	行政		
小倉	●	●	●	●	●	○	【2019年人口増成の北九州都市圏の中核として、国際的・広域的な交通拠点にかきおこし、様々な高次都市機能が集積された運動的・能動的で魅力豊かなまちづくり】 ・200万人規模の北九州都市圏の中核 ・にぎわい・活力を創出し、北九州市ならびに北九州都市圏の発展を牽引 ・東アジアによる国内外を対象とした拠点	都市・副都心 (都心)
黒崎	●	●	●	●	●	○	【北九州都市圏の中核を担う広域集積拠点として、商業・業務・文化など高次の都市機能が集積された、質の高い生活環境を有する個性のあるまちづくり】 ・小倉都市圏を軸とした北九州都市圏の中核 ・北九州都市圏の中核として、広域ニーズに対応した高次都市機能を提供 ・公共交通でも利用しやすいまちづくり	都市・副都心 (副都心)
門司港	●	●	●	●	●	○	【吉野町としての歴史・文化を継承する広域副都心として多くの人が訪れるまちづくり】 ・歴史とウォークアブル・フレンドリーを活かした広域観光拠点 ・港町としての産業経済圏 ・公共交通機関による集約型の都市構造形成に向けた先導地区	地域拠点
門司	●	●	●	●	●	○	【岸と山に囲まれた魅力的な景観を背景に、多様な事例が住む、さまざまな門のあるまちづくり】 ・上地区面整理事業による新たな魅力や、本州との鉄道結節点としての特性を生かしたまちづくり ・公共交通機関による集約型の都市構造形成に向けた先導地区	地域拠点
城野	●	●	●	●	●	○	【東区ゼロ・カーボン先進地区の取組みや交通の拠点を生かした、環境未来都市にふさわしいまちづくり】 ・環境未来都市を先導するゼロ・カーボンまちづくり ・駅前の商業施設における職住近接型の居住地 【子育てしやすい高齢社会にも対応した、持続可能な利便性の高い住居市街地としてのまちづくり】 ・高齢者に優しい社会に対応した福祉のまちづくり	地域拠点
徳力・守恒	●	●	●	●	●	○	【北九州空港北側の産業団地など、駅周辺の交通拠点を生かした、便利で暮らしやすいまちづくり】 ・本市の南東部の都市核としての機能集積 ・集積に際する産業団地や住宅市街地としての交通拠点としてのニーズに対応したまちづくり	地域拠点
下菅原	●	●	●	●	●	○	【副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり】 ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり	地域拠点
若松	●	●	●	●	●	○	【副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり】 ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり	地域拠点
八幡・東田	●	●	●	●	●	○	【副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり】 ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり	地域拠点
折尾	●	●	●	●	●	○	【交通結節機能を生かした、地域との交流を深める寄附都市としての魅力あるまちづくり】 ・市西側における鉄道結節の要衝として、歴史的な中核都市として対峙したまちづくり ・北九州都市圏の中核として、広域ニーズに対応したまちづくり	地域拠点
八幡南	●	●	●	●	●	○	【本市の市西側における交流を深める寄附都市としての魅力あるまちづくり】 ・長崎県内における交流を深める寄附都市としての魅力あるまちづくり ・広域ニーズに対応したまちづくり	地域拠点
戸畑	●	●	●	●	●	○	【副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり】 ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり ・副都心区にふさわしい、歴史と水辺の景観を生かした、若い世代が暮らしやすいまちづくり	地域拠点
学術研究都市	●	●	●	●	●	○	【先端科学技術に関する教育・研究拠点が集積し、良好な生活環境が形成された複合的なまちづくり】 ・研究・拠点としてのまちづくり ・教育・研究拠点を軸とした生活環境の整備 ・交通利便性を生かした暮らしやすいまちづくり ・交通利便性を生かした暮らしやすいまちづくり ・地産地消を推進した暮らしやすいまちづくり 【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】 ・商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり	地域拠点
東折尾	●	●	●	●	●	○	【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】 ・商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり	生活拠点
上高原	●	●	●	●	●	○	【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】 ・商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり	生活拠点
二島	●	●	●	●	●	○	【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】 ・商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり	生活拠点
永大丸・三方森	●	●	●	●	●	○	【既存の生活支援機能の集積を生かした暮らしやすいまちづくり】 ・商業施設などの機能集積を生かしたまちづくり	生活拠点



第5章

～ 都市機能誘導区域 ～
